

事業名 : 田んぼで遊ぼう！～農業体験と自然観察から学ぶ自然の恵み～

事業主体 名称：一般社団法人ジンジャー・エール

住所：岡山県備前市日生町寒河 1037-1

事業実施場所 つきとき（福尾農園：備前市久々井）・古民家天 goo・寒河コミュニティセンター
（備前市日生町寒河）

～事業を始めるにあたって～

（地域の現状・課題・目標など） ※実績報告書（様式6）②目的、③概要・方法

令和3年度、本事業の笑顔で子育てできる支え合いのネットワークづくり事業の委託を受け、多世代交流の場作りを行い、子どもたちや地域の方々が集まる良い機会や場の提供ができた。

その中で、人と人とが直接ふれあえる場であったり、実体験を伴ったりする活動が、子どもたちの成長にとって大切であることがよくわかった。しかし、意図してその機会を作らなければ、現在の生活スタイルの中やコロナ禍の中における子どもたちの人とふれあえる機会や外で思い切り遊ぶ機会・実体験を伴う活動の機会・実体験から学ぶ機会がとても乏しいことも感じられた。子どもたちが外で遊ぶ機会を設けることで、実体験を伴う活動や実体験から得られる学び・人とふれあう機会が自然にできていくのではないかと思われる。

そこで、我が団体は、コミュニティカフェにおいて、子育て支援事業はもちろん健康づくり事業も行っており、食を通じた健康づくりの提案・提供や食育活動も行っている。

今後、事業の中で、有機農業の取り組みも行う計画があり、自然とふれあう遊びや体験・農業体験を通じて、食の大切さ・自然の恵みのありがたさ・自分たちの口にすることがどのようにして作られているのかという過程を知る機会・安全な食を考える機会などを設けることができると考えている。その第一歩として、今年度、農業体験や自然観察をするなどの外遊びから、外で思い切り遊ぶ楽しさを感じたり、自然の恵みについて学ぶ機会となればと願うとともに、その中で子どもたち同士や多世代の交流の場になることも期待している。

～事業実施内容～

外遊び

<第1回>

- | | |
|-------|---|
| ①事業名 | 田植え体験とどろんこ遊び |
| ②参加人数 | 乳児4名・こども園児7名・小学生4名・大人15名 計30名 |
| ③日時 | 令和4年6月19日（日）9：30～12：30 |
| ④場所 | 備前市久々井・福尾農園(つきとき) |
| ⑤内容 | 講師：福尾農園 福尾 吉剛さん
内容：どろんこ遊びをする。
田植えを体験する。 |



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

- ・泥んこ遊びに少し抵抗感を持っている子どもが多いように感じた。スタッフが率先して、遊びを楽しむ姿を見せたり、誘いやすい遊びを設定したり、個別に声をかけていくことで徐々に慣れていくような様子だった。
 - ・慣れていくと、汚れることをいとわず、ダイナミックに遊ぶ姿が見られる子や泥に浸かって「気持ちいい」と声を上げる子もおり、全身で泥を感じる機会などなかなかない中で、良い機会となったし、泥によって開放感を味わっている姿が印象的だった。
 - ・泥んこ遊びが気になりながら、田んぼの中や周りにいる虫や生き物に興味がありすぎて、虫採りや生き物採りに夢中になっている子どもたちの姿や大人達の姿も見られ、その集中力や笑顔がとても素敵だなと感じた。3時間くらい集中する姿を見せる子もおり、驚きだった。
 - ・泥んこ遊び・泥んこ運動会を始めに行ったことで、田植えの活動に移るときにも抵抗感が薄れてスムーズに田植えを行うことができた。
 - ・初めて米の苗に触るという子もおり、普段口にしているお米がこのようにできていくということを知る良い機会となった。
 - ・昔ながらの植え方で手植えしていったが、みんなでも大変な作業だったので、農家の方への感謝の気持ちを持ったり、自然の恵みに感謝できるようになればいいと感じ、そのことに気づくことができるような言葉がけをしていくようにスタッフは心がけた。
- 秋に米が実ることを楽しみにしているような言葉を子どもたちから聞くことができたので、伝わったのではないかと思います。

<第2回>

- ①事業名 田んぼの草取りと水辺の生き物観察
- ②参加人数 乳児1名・こども園児1名・小学生2名・大人2名 計6名
- ③日時 令和4年7月30日(日) 9:30~12:30
- ④場所 備前市久々井:福尾農園(つきとき)
- ⑤内容 内容:稲の様子を観察し、草取りをする。

田んぼの中や田んぼの周りにはいる生き物を見つける。



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

- ・備前市内で新型コロナウイルスがまん延し、感染者が日に日に増えている状況によるのか、いろいろな方法で呼びかけをしてみたものの、参加者が集まりにくく、少ない状況となった。行きたいと言っていた方も直前にキャンセルの連絡があったりしたので、状況を見て、講師を招くことも急遽取りやめた。感染対策を徹底しながら、少人数で行うこととした。
- ・天候も台風の風が強く吹き、思っていたよりは涼しかったが、少人数での草取りは、暑さと労力がかなり大変だった。
参加者は、お米が育つまでの栽培や管理の大変さをつくづく感じたようで、反省でも「草取りが大変だった。」「おいしいお米を食べるまでには、大変な草取りなどをしないといけないことが分かった。」などの声が聞かれた。
- ・子どもたちは、草取りをしながらも、田んぼの中や周りにいる虫や生き物に興味をもち、虫採りや生き物採りに夢中になっている子どもたちの姿や大人達の姿も見られた。
講師がいなかったものの、大人達が、虫や生き物の名前を知らせる場面が何度となくみられ、やりとりの様子が微笑ましかった。

<第3回>

- ①事業名 かかしづくり
- ②参加人数 こども園児2名・小学生4名・大人4名 計10名
- ③日時 令和4年9月11日(日) 9:30~12:30
- ④場所 備前市日生町寒河:古民家天 goo
- ⑤内容 講師:美術アーティスト 川原 将太さん
内容:・自然物や身近なものを使ってかかし作りを行う。



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

- ・かかしづくりを行う前に参加者同士が仲良くなれるように、人間知恵の輪のふれあい遊びを行った。子どもも大人も一緒に遊びを楽しみ、ふれあう姿がとても素敵だった。
- ・講師の指導によって、竹や古着・毛糸などの身近な素材を使って、3グループに分かれてかかしづくりを行った。
髪型や使う素材・かかしに着せる服などをそれぞれのグループで、意見を出し合いながら、工夫を行い、それぞれに味のあるかかしを作成できた。
- ・みんなで協力して作る中で、自分の意見を出せる子やそうでない子、意見がぶつかり合ったり、折り合いをつけたりといろいろな場面が見られたが、それぞれに上手く解決させながら取り組む姿は、人とのふれあいの中で経験して欲しい場面だったので、良い機会となった。

- ・かかしをみんなで紹介し合い、工夫したところや見て欲しいところなどを伝える姿も微笑ましかった。その日、田んぼに設置することはできなかったが、後日スタッフが設置し、その様子を参加者に写真でお伝えするようにした。

田んぼに設置すると、それぞれのかかしが緑の稲に映えて、素敵だった。

<第4回>

- ①事業名 稲刈り体験
- ②参加人数 こども園児3名・小学生2名・中高生1名・大人6名 計12名
- ③日時 令和4年10月9日(日) 9:30~12:30
- ④場所 備前市久々井:福尾農園(つきとき)
- ⑤内容 講師:福尾農園 福尾 吉剛さん
内容:田んぼの中や周りにいる生き物を見つける。
手で稲を刈る。
コンバインに乗る。



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

- ・天候が怪しい中での開催になった。田植えを行ったときの参加者が今日ごく数人だったが、活動に興味のある高校生や大学生・大人が参加してくれ、いろいろな世代のいい交流の場になったように感じた。
しんどい作業であったが、いろいろな会話が弾み、みんなで笑い合いながら作業を進めることができた。
- ・参加者の自己紹介やふれあいタイムを少し行った後、稲刈りを行った。大人もふれあいタイムを楽しんでおり、子どもたちも心を開いて大人とふれあうことができた。
- ・稲刈りは体験したことがない子どももいたが、鎌を上手に使いながら刈ることができていた。
- ・稲の束を結ぶ作業は、大人ががんばって行い、子どもと大人が連携や協力しながら行う姿が印象的だった。
- ・刈る作業もとても労力がある作業であるので、農作業の大変さを感じたり、昔の方が丁寧に手作業していたことに思いを馳せたりしながら、作業する様子や会話が聞かれた。
- ・なかなか稲刈りを体験することがなかったり、コンバインに乗ってみることもないので、子どもたちにとっては、本当に貴重な体験となったように思う。

<第5回>

- ①事業名 新米食べて、しめ縄づくり&もちつき
②参加人数 乳児2名・こども園児8名・小学生19名・大人12名 計41名
③日時 令和4年12月27日(火) 9:30~14:00
④場所 備前市日生町寒河:寒河コミュニティセンター
⑤内容 講師:美術アーティスト 川原将太さん

内容:刈り取ったわらを使って、しめ縄作りを行う。

育てたお米で作ったおにぎりを味わう。

おもちつきに参加する。



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

- ・冬休みに入っていることや子どもたちにとって興味のある内容だったためか、予約制にしたがすぐに予約がいっぱいになってしまうくらい申込がきた。
ただ、最後のこの会のみ参加することになる子どもたちも多く、田植えから刈り取りまで関わって欲しかった主催者側の思いもあり、ジレンマを感じた。
- ・子どもたちだけでなく、しめ縄づくりやもちつきなど、大人も最近では経験しなくなった年末の伝統的な行事に参加できることを楽しみにされている様子が感じられた。
- ・新米の試食を行ったが、6月から子どもたちと一緒に大切に育ててきたことを伝え、農薬を使わないで育てたお米のおいしさを味わってもらうことで、安全に安心して食べる大切さを感じてもらうことができた。皆が口をそろえて、「お米がおいしい」と言っていた。
- ・もちつきは、子どもたちが本当に楽しそうな声をあげながら、おもちを杵で順番についたり、いろいろな味のおもちを食べることを喜んでいたりする姿があった。
事後のアンケートでももちつきを経験できたことが「とても楽しかった」「またやりたい」などの感想が寄せられた。
家では経験することが少なくなっているもちつきを体験できたことは子どもたちにとって良かったのではないかと思う。
- ・おもちを食べながら、他の学校の友達や普段関わりのない友達と話をしたり、一緒におもちをついたり、合間に遊んだり、大きい子が小さい子の面倒を見たり、赤ちゃんの面倒をみたりする子もいたりして、いいふれあいの場になっていた。参加者の大人も温かく見守る姿や自分の子どもだけでなくふれあう保護者の姿があり、良い多世代交流の場になっているなど感じた。
- ・育てたお米の恵みを最後まで活用するしめ縄づくりを行うことで、昔から伝わる知恵や伝統行事に親しむことができ、お正月を楽しみにできる取り組みの良さを感じた。
- ・講師のアドバイスを受けながら、周りの人と協力してしめ縄を作ったり、一人一人、飾りの自然物をどのようにつけていくかを工夫したりして、集中して楽しんでいる姿がとてもいい

光景だった。近くに座った人同士のやりとりもとてもいい雰囲気だった。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

活動を通して、人と人とが直接ふれあえる場であったり、実体験を伴ったりする活動が、子どもたちの成長にとって大切であることが改めてよくわかった。その機会を作ること、現在の生活スタイルの中やコロナ禍の中における子どもたちの人とふれあえる機会や外で思い切り遊ぶ機会・実体験を伴う活動の機会・実体験から学ぶ機会がとても乏しい状況を少し変える役割ができたのではないかと思う。農業体験を通じて、子どもたちが外で遊ぶ機会を設けることで、農作物の生長を感じたり、田んぼの生き物とふれあったり、自然の恵みや自分が口にしているお米ができるまでの過程を学ぶことができたのではないかと感じる。遊びや農作業をする中で人とふれあう機会も自然にできていたとも感じられた。

○今後の課題・展開

<今後の課題・展開>

子どもたちの人とふれあえる機会や外で思い切り遊ぶ機会・実体験を伴う活動の機会・実体験から学ぶ機会がとても乏しい状況はまだまだ変わらないでいると感じるので、今後もその改善の機会づくりを継続していかなければと強く感じている。

今後、我が団体の事業の中で、有機農業の取り組みも行う計画があり、自然とふれあう遊びや体験・農業体験を通じて、食の大切さ・自然の恵みのありがたさ・自分たちの口にするものがどのようにして作られているのかという過程を知る機会・安全な食を考える機会などを設けることができると考えている。その第一歩として、今年度、農業体験や自然観察をするなどの外遊びから、外で思い切り遊ぶ楽しさを感じたり、自然の恵みについて学ぶ機会となればと願っていたが、本当にそのような機会にさせていただくことができ、ありがたく思っている。

○まとめ

農業体験や自然観察をするなどの外遊びから、外で思い切り遊ぶ楽しさを感じたり、自然の恵みについて学ぶよい機会となった。何よりも実体験から学ぶ機会をつくれたことは素敵なことだった。

子どもたち同士や多世代の交流の場になることも期待していたが、農作業や外遊びの中で、自然にそのような場となっていて今後も外遊びや農作業を通じた人との関わりの場づくりができるように努めたい。